



お詫びと訂正

12月号の広報くまのに掲載した「年末歯科当番医」に誤りがありました。訂正し、お詫びいたします。

《正》

●12月30日(火)
午前9時～午後3時
かくわ歯科
TEL 855・4646

《誤》

○12月30日(火)
午前9時～午後3時
おかもと歯科
TEL 855・1777

はじめの

絵本



♡ことばは

「こころを育てます

ことばはこころの栄養として大切なものです。絵本の中には、美しい言いまわしや、リズム感にあふれたことばが、いっぱい詰まっています。文字だけでなく、美しい絵もあかちゃんに語りかけているのです。絵本で語りかけてあげてください。お母さんやお父さんの「声」にはこころを育てる栄養分がいっぱいです。



♡絵本の「読み聞かせ」は

脳の発達を促します

子どもの脳は成長のまっさかり。言葉をかけることが、子どもの脳の発育に良い影響を与えます。いろいろなことをたくさん吸収する時期に、お母さんやお父さん、身近な人の「読み聞かせ」は、話しかけと同様、子どもの耳に心地よく入り、脳の発達を促します。

♡絵本の「読み聞かせ」の効能

子どもは、お母さんやお父さん、身近な人に絵本を読んでもらうのが大好きです。「読み聞かせ」にはどんないいことがあるのでしょうか。

・想像力が育ちます

絵本を読んであげると、子どもはページをめくる前に、次に出てくる絵やストーリーについて思いを巡らすことができます。次はどうなるのかな、何が出てくるのかな・・・ワクワクしながらページをめくることで、自分で考える力、想像の力が育っていきます。

・たくさんのことばに
出会います

子どもは、ことばを獲得していく大切な時期にあります。子どもたちのことばの先生は、お母さんやお父さんを中心とする身近な大人たちです。大人たちの話しかける「話

・愛情を与えます

「しことば」と絵本の読み聞かせによる「書きことば」を聞くことで、子どもたちの語彙（ボキャブラリー）は、より豊かになっていきます。

子どもの成長には、食べ物、愛情、ことばの3つが欠かせません。愛情とことばは密接な関係にあり、ことばをかけることは、愛情をかけることにもつながります。

急ぐことはありません。

「絵本を読んであげたいな・・・」そう思ったときが、はじめどきです。もともと絵本は親子双方にとって、楽しむためのもの。読み手も楽しんで、親子で一緒にリラックスタイムを。いっしょに1冊の絵本を読んだ経験は、大きくなってからの宝物になるでしょう。



(健康課)

今年の冬のSARS対策について

◆SARSって、どんな病気？

SARSは患者のせきを浴びたり、痰や体液等に直接触れたりした場合に感染し、2日～10日間の潜伏期間を経て発症します。潜伏期や無症状態での感染は極めて弱いと考えられています。

◆SARSが疑われるのは、どんなとき？

SARSが疑われるのは次の項目を満たす場合があります。

①発症前10日以内にSARSの流行地域から帰国するか、又は10日以内にSARS患者の痰や体液に触れる等の濃厚な接触があった方